

現代の求めるピアノの完成

19 世紀の中頃、ショパン、リスト時代をもって、ピアノのメカニズムの原理と工夫は一応の完成の域に達しました。メーカーのその後の努力目標は、もっぱら質の向上に向けられることとなります。

ピアノの弦は、さらに太い巻線になり、また全体の張力も増大したため、それを支えるために鋳物の鉄骨を組むようになりました。その上に華やかな明るい音を求めるとなると、弦の張り方も極限まで張力を高めることとなります。また音域の面でも、第一次大戦後は 88 鍵が標準になりました。

このようにして、音の質、タッチ、音域、音量、そして総合的に現代の要求に応えるピアノが完成されたのです。

音が出るしくみ

弦を打って出た音が楽器全体に響く！

鍵盤を押すと、その奥にあるハンマーが下から弦を打ちます。けれどもこれだけではまだ小さな音でしかありません。

弦の片方の端は駒で支えられていて、その駒は響板に載っています。弦の振動は駒を介して響板に伝わり、響板が空気を振動させることで大きな音が鳴るのです。ピアノは、響板を中心に、楽器全体が振動して音を出しているのですよ。

● グランドピアノの構造図

